

(12)特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19)世界知的所有権機関  
国際事務局



(43)国際公開日  
2005年9月9日 (09.09.2005)

PCT

(10)国際公開番号  
WO 2005/083302 A1

(51)国際特許分類<sup>7</sup>: F16H 55/17, B23F 15/00

(21)国際出願番号: PCT/JP2005/003554

(22)国際出願日: 2005年2月24日 (24.02.2005)

(25)国際出願の言語: 日本語

(26)国際公開の言語: 日本語

(30)優先権データ:  
特願2004-052621 2004年2月27日 (27.02.2004) JP

(71)出願人(米国を除く全ての指定国について): トヨタ自動車株式会社 (TOYOTA JIDOSHA KABUSHIKI KAISHA) [JP/JP]; 〒4718571 愛知県豊田市トヨタ町1番地 Aichi (JP).

(72)発明者; および

(75)発明者/出願人(米国についてのみ): 水野 陽太

(MIZUNO, Yota) [JP/JP]; 〒4718571 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内 Aichi (JP). 浮田 充康 (UKITA, Mitsuyasu) [JP/JP]; 〒4718571 愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内 Aichi (JP).

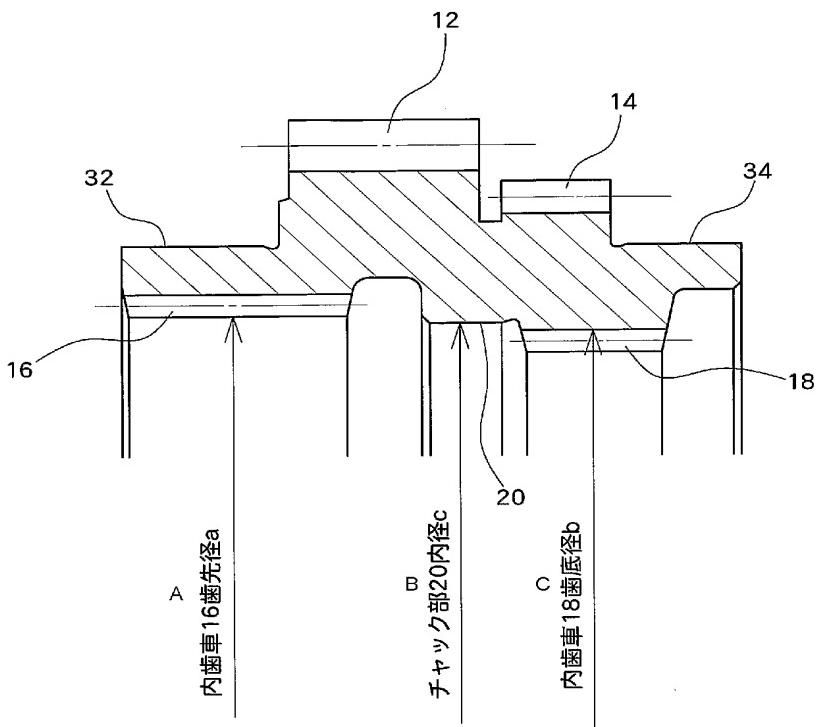
(74)代理人: 吉田 研二, 外 (YOSHIDA, Kenji et al.); 〒1800004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目34番12号 Tokyo (JP).

(81)指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG,

/続葉有/

(54)Title: COMPOSITE GEAR AND METHOD OF MANUFACTURING THE SAME

(54)発明の名称: 複合歯車及びその製造方法



A DIAMETER (a) OF TIP OF INTERNAL GEAR (16)  
B DIAMETER (c) OF TIP OF CHUCK PART (20)  
C DIAMETER (b) OF BOTTOM OF INTERNAL GEAR (18)

(57)Abstract: A composite gear, wherein external gears and rotation support surfaces are formed on the outer peripheral surface thereof and a first internal gear and a second internal gear are formed on the inner peripheral surface thereof at a specified interval in the rotating axis direction. A chuck part is formed on the inner peripheral surface between the first internal gear and the second internal gear, and the inner diameter of the chuck part is smaller than at least one of the diameter of the tip of the first internal gear and the diameter of the tip of the second internal gear.

(57)要約: 外周面に外歯車及び回転支持面が形成され、内周面に第1内歯車及び第2内歯車が回転軸方向に關して所定間隔をおいて形成された複合歯車において、内周面における第1内歯車と第2内歯車の間には、チャック部が形成されており、チャック部の内径は、第1内歯車の歯先径及び第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さい。

WO 2005/083302 A1



SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR),

添付公開書類:

- 國際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

## 明 細 書

## 複合歯車及びその製造方法

## 「技術分野」

本発明は、外周面に外歯車及び回転支持面が形成され、内周面に第1内歯車及び第2内歯車が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成された複合歯車及びその製造方法に関する。

## 「背景技術」

内周面に内歯車が形成されるとともに外周面に外歯車（凸部）が形成された複合歯車の一例が実開昭63-87344号公報に開示されている。実開昭63-87344号公報の複合歯車は、原動軸と出力回転軸との間に遊星歯車減速装置を装着した機関始動装置において、遊星歯車減速装置のリングギヤに用いられている。このような複合歯車においては、通常、ベアリングによって回転可能に支持される面である回転支持面が外周面に設けられている。

また、その他の背景技術として、歯部加工機に歯車をセットするための歯車用ローディング装置が特開平6-114672号公報に開示されている。

外周面に外歯車が形成され内周面に内歯車が形成された複合歯車においては、外周面の回転支持面にて外径チャックを行った状態で外歯車の加工が行われている。しかし、回転支持面はベアリングによって回転可能に支持される面であるため、外歯車の加工後に回転支持面の仕上げ加工を行う必要がある。そのため、外周面の回転支持面にて外径チャックを行った状態で外歯車の加工を行った場合は、外歯車の加工時と回転支持面の加工時とで、加工物の位置決めを行うための基準が異なってくる。したがって、外歯車の精度が低下してしまうという問題点がある。

本発明は、外歯車の精度を向上させることができる複合歯車及びその製造方法を提供することを目的とする。

## 「発明の開示」

本発明に係る複合歯車は、外周面に外歯車及び回転支持面が形成され、内周面に第1内歯車及び第2内歯車が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成された複合歯車であって、前記内周面における前記第1内歯車と前記第2内歯車の間に、チャック部が形成されており、前記チャック部の内径は、前記第1内歯車の歯先径及び前記第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さいことを要旨とする。

本発明においては、内周面における第1内歯車と第2内歯車の間にチャック部が形成されており、このチャック部の内径は、第1内歯車の歯先径及び第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さいことにより、内周面に形成されたチャック部にて内径チャックを行った状態で、外歯車の加工及び回転支持面の加工を行うことができる。したがって、外歯車の加工時と回転支持面の加工時とで、加工物の位置決めを行うための基準が異なることがないので、本発明によれば、外歯車の精度を向上させることができる。

本発明に係る複合歯車の一態様では、前記チャック部の内径は、前記第1内歯車の歯先径より小さく、かつ前記第2内歯車の歯底径より大きい。こうすれば、第2内歯車の精度を向上させることができる。

本発明に係る複合歯車の製造方法では、前記チャック部が回転軸方向に関して前記第1内歯車と前記第2内歯車の間に位置し、前記チャック部の内径が前記第1内歯車の歯先径及び前記第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さくなるように、該チャック部、該第1内歯車、及び該第2内歯車を前記内周面に形成する内周面加工工程と、前記外歯車の形成を前記チャック部にてチャックを行った状態で行う外歯車加工工程と、前記回転支持面の加工を前記チャック部にてチャックを行った状態で行う回転支持面加工工程と、を含む。こうすれば、内周面に形成されたチャック部にて内径チャックを行った状態で、外歯車の加工及び回転支持面の加工を行うことができる。

本発明に係る複合歯車の製造方法の一態様では、前記内周面加工工程は、前記チャック部の内径が前記第1内歯車の歯先径より小さくかつ前記第2内歯車の歯底径より大きくなるように、該チャック部、該第1内歯車、及び該第2内歯車を

前記内周面に形成する工程である。こうすれば、第2内歯車の形成をプローチ加工によって行うことができる。

#### 「図面の簡単な説明」

図1は、本発明の実施形態に係る複合歯車の構成の概略を示す断面図である。

図2は、本発明の実施形態に係る複合歯車の構成の概略を示す断面図である。

図3は、本発明の実施形態に係る複合歯車の製造方法を説明する断面図である。

図4は、本発明の実施形態に係る複合歯車の製造方法を説明する断面図である。

図5は、本発明の実施形態に係る複合歯車の製造方法を説明する断面図である。

図6は、本発明の実施形態に係る複合歯車の製造方法を説明する断面図である。

#### 「発明を実施するための最良の形態」

以下、本発明の好適な実施形態を図面に従って説明する。図1、2は、本発明の実施形態に係る複合歯車の構成の概略を示す図であり、図1は断面図を示し、図2は図1の○部の拡大図を示す。本実施形態に係る複合歯車においては、外周面8に第1外歯車12及び第2外歯車14が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成されるとともに、内周面10に第1内歯車16及び第2内歯車18が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成されている。

外周面8における第1外歯車12及び第2外歯車14より回転軸方向に関して外側の両端部には、回転支持面32、34がそれぞれ形成されている。本実施形態に係る複合歯車は、この回転支持面32、34の位置にてベアリング（図示せず）によって回転可能に支持される。

そして、本実施形態においては、内周面10における第1内歯車16と第2内歯車18との間に、チャック部20が形成されている。このチャック部20は、第1外歯車12の形成位置に対しほぼ裏側となる位置に形成されている。そして、図2に示すように、チャック部20の内径cは、第1内歯車16の歯先径aより小さく、かつ第2内歯車18の歯底径bより大きい。

次に、本実施形態に係る複合歯車の製造方法について説明する。

まず図3に示すように、歯車12、16、18の形成を行う前における外周面

8 及び内周面 10 の形成が行われる。外周面 8 には、第 1 外歯車形成面 22 及び第 2 外歯車 14 が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成され、回転軸方向に関する両端部には仕上げ加工前の回転支持面 32, 34 が仮形成される。一方、内周面 10 には、第 1 内歯車形成面 26 及び第 2 内歯車形成面 28 が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成され、第 1 内歯車形成面 26 と第 2 内歯車形成面 28 との間にチャック部 20 が形成される。ここで、チャック部 20 の内径は、第 1 内歯車形成面 26 の内径より小さく、かつ第 2 内歯車形成面 28 の内径より大きい。そして、チャック部 20、第 1 外歯車形成面 22 の形成位置に対しほぼ裏側となる位置に形成される。

なお、図 3 では、第 2 外歯車 14 の精度を必要としないものとして、第 2 外歯車 14 をすでに形成した場合を示している。ただし、第 2 外歯車 14 の精度を必要とする場合は、この時点ではまだ第 2 外歯車 14 を形成しない。また、チャック部 20 については、既知の加工方法を用いて形成することができる。

次に、図 4 に示すように、第 2 内歯車形成面 28 の加工を行うことで、第 2 内歯車 18 の形成を行う。ここでは、プローチ加工によって第 2 内歯車 18 を形成することができる。本実施形態では、第 2 内歯車形成面 28 の内径がチャック部 20 の内径及び第 1 内歯車形成面 26 の内径より小さいことにより、第 2 内歯車 18 の形成のためにプローチ（図示せず）を回転軸方向に挿入することができる。そして、プローチ加工により第 2 内歯車 18 を形成することで、第 2 内歯車 18 を短時間でかつ高精度に形成することができる。プローチを第 1 内歯車形成面 26 側から第 2 内歯車形成面 28 側へ挿入する際には、位置決め治具 42 を回転軸方向の一端面 36 に当接させることで、工作物の回転軸方向の位置決めが行われる。また、挿入されるプローチによって工作物の半径方向の位置決めが行われる。プローチ加工の後は、第 2 内歯車 18 のシェーピング加工を行う。

第 2 内歯車 18 の形成後は、図 5 に示すように、第 1 内歯車形成面 26 の加工を行うことで、第 1 内歯車 16 の形成を行う。ここでは、例えばホブ加工等の既知の加工方法によって第 1 内歯車 16 を形成することができる。その際に、位置決め治具 42 を回転軸方向に垂直な面に当接させることで、工作物の回転軸方向の位置決めが行われる。また、位置決め治具 44 を第 1 外歯車形成面 22 に当接

させることで、工作物の半径方向の位置決めが行われる。第1内歯車形成面26の加工後は、第1内歯車16のシェービング加工を行う。

以上の工程を行うことで、図5に示すように、チャック部20が回転軸方向に関する第1内歯車16と第2内歯車18の間に位置し、チャック部20の内径cが第1内歯車16の歯先径aより小さくかつ第2内歯車18の歯底径bより大きくなるように、チャック部20、第1内歯車16、及び第2内歯車18が内周面10に形成される。

チャック部20、第1内歯車16、及び第2内歯車18を内周面10に形成した後は、図6に示すように、第1外歯車形成面22の加工を行うことで、第1外歯車12の形成を行う。ここでは、例えばホブ加工等の既知の加工方法によって第1外歯車12を形成することができる。その際に、位置決め治具42を回転軸方向に垂直な面に当接させることで、工作物の回転軸方向の位置決めが行われる。また、位置決め治具46をチャック部20に当接させることで、工作物の半径方向の位置決めが行われる。本実施形態では、チャック部20の内径cが第1内歯車16の歯先径a（第1内歯車形成面26の内径）より小さいことにより、チャック部20に当接させるための位置決め治具46を第1内歯車16側から挿入することができるので、内径チャックを行った状態で第1外歯車12の形成を行うことができる。第1外歯車形成面22の加工後は、第1外歯車12のシェービング加工を行う。そして、第1外歯車12の形成後は、各歯車12, 14, 16, 18の焼入れを行う。

各歯車12, 14, 16, 18の焼入れを行った後は、回転支持面32, 34の研磨を行うことで、ベアリングによって回転支持される面である回転支持面32, 34の仕上げ加工を行う。ここでも、チャック部20に当接させるための位置決め治具46を第1内歯車16側から挿入することができるので、内径チャックを行った状態で回転支持面32, 34の仕上げ加工を行うことができる。以上説明した工程に基づいて、本実施形態に係る複合歯車を得ることができる。

なお、以上の説明においては、第2内歯車18の形成を行った後に第1内歯車16の形成を行う場合を説明したが、第1内歯車16の形成を行った後に第2内歯車18の形成を行ってもよい。また、第2外歯車14の精度を必要とする場合

は、第1内歯車16の形成の後または第1外歯車12の形成の後に、第2外歯車14の形成を行う。その際にも、チャック部20に当接させるための位置決め治具46を第1内歯車16側から挿入することができるので、内径チャックを行った状態で第2外歯車14の形成を行うことができる。

以上説明したように、本実施形態においては、チャック部20の内径cが第1内歯車16の歯先径a（第1内歯車形成面26の内径）より小さいことにより、位置決め治具46を第1内歯車16側から挿入してチャック部20に当接させることができるので、内径チャックを行った状態で第1外歯車12の形成及び回転支持面32, 34の仕上げ加工を行うことができる。このように、外周面8の回転支持面32, 34にて外径チャックを行うことなく第1外歯車12の形成を行うことができるので、第1外歯車12の形成時と回転支持面32, 34の仕上げ加工時とで、加工物の位置決めを行うための基準が異なることがない。したがって、本実施形態によれば、第1外歯車12の精度を向上させることができる。さらに、内径チャックを行った状態で第1外歯車12の形成を行うことができるので、第1外歯車12の形成の際に切削工具が位置決め治具に干渉するのを確実に防止することができる。

さらに、本実施形態においては、チャック部20の内径cが第2内歯車18の歯底径bより大きいことにより、プローチ加工によって第2内歯車18を形成することができるので、第2内歯車18の精度を向上させることができ。さらに、第2内歯車18の形成に要する時間を短縮することができる。

以上の説明においては、チャック部20の内径cが、第1内歯車16の歯先径aより小さくかつ第2内歯車18の歯底径bより大きい場合について説明した。ただし、チャック部20の内径cが、第1内歯車16の歯先径及び第2内歯車18の歯先径の少なくとも1つより小さい場合でも、位置決め治具46をチャック部20に当接させることができるので、内径チャックを行った状態で第1外歯車12の形成及び回転支持面32, 34の仕上げ加工を行うことができる。したがって、その場合でも、第1外歯車12の精度を向上させることができ。なお、その場合は、チャック部20の内径が第1内歯車形成面26の内径及び第2内歯車形成面28の内径の少なくとも1つより小さくなるように、チャック部20、

第1内歯車形成面26、及び第2内歯車形成面28が内周面10に形成される。これによって、チャック部20の内径が第1内歯車16の歯先径及び第2内歯車18の歯先径の少なくとも1つより小さくなるように、チャック部20、第1内歯車16、及び第2内歯車18が内周面10に形成される。また、第2内歯車18の形成については、例えばホブ加工等の既知の加工方法によって行うことができる。

また、以上の説明においては、外周面8に第1外歯車12及び第2外歯車14が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成されている場合について説明した。ただし、例えば外周面8に第1外歯車12のみが形成されている場合についても本発明の適用が可能であり、外周面8に形成する外歯車の数に関係なく本発明の適用が可能である。

以上、本発明を実施するための形態について説明したが、本発明はこうした実施形態に何等限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において、種々なる形態で実施し得ることは勿論である。

## 請求の範囲

1. 外周面に外歯車及び回転支持面が形成され、内周面に第1内歯車及び第2内歯車が回転軸方向に関して所定間隔をおいて形成された複合歯車であって、

前記内周面における前記第1内歯車と前記第2内歯車の間には、チャック部が形成されており、

前記チャック部の内径は、前記第1内歯車の歯先径及び前記第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さいことを特徴とする複合歯車。

2. 請求の範囲1に記載の複合歯車であって、

前記チャック部の内径は、前記第1内歯車の歯先径より小さく、かつ前記第2内歯車の歯底径より大きいことを特徴とする複合歯車。

3. 請求の範囲1に記載の複合歯車を製造する方法であって、

前記チャック部が回転軸方向に関して前記第1内歯車と前記第2内歯車の間に位置し、前記チャック部の内径が前記第1内歯車の歯先径及び前記第2内歯車の歯先径の少なくとも1つより小さくなるように、該チャック部、該第1内歯車、及び該第2内歯車を前記内周面に形成する内周面加工工程と、

前記外歯車の形成を前記チャック部にてチャックを行った状態で行う外歯車加工工程と、

前記回転支持面の加工を前記チャック部にてチャックを行った状態で行う回転支持面加工工程と、

を含むことを特徴とする複合歯車の製造方法。

4. 請求の範囲3に記載の複合歯車の製造方法であって、

前記内周面加工工程は、前記チャック部の内径が前記第1内歯車の歯先径より小さくかつ前記第2内歯車の歯底径より大きくなるように、該チャック部、該第1内歯車、及び該第2内歯車を前記内周面に形成する工程であることを特徴とする複合歯車の製造方法。

図 1

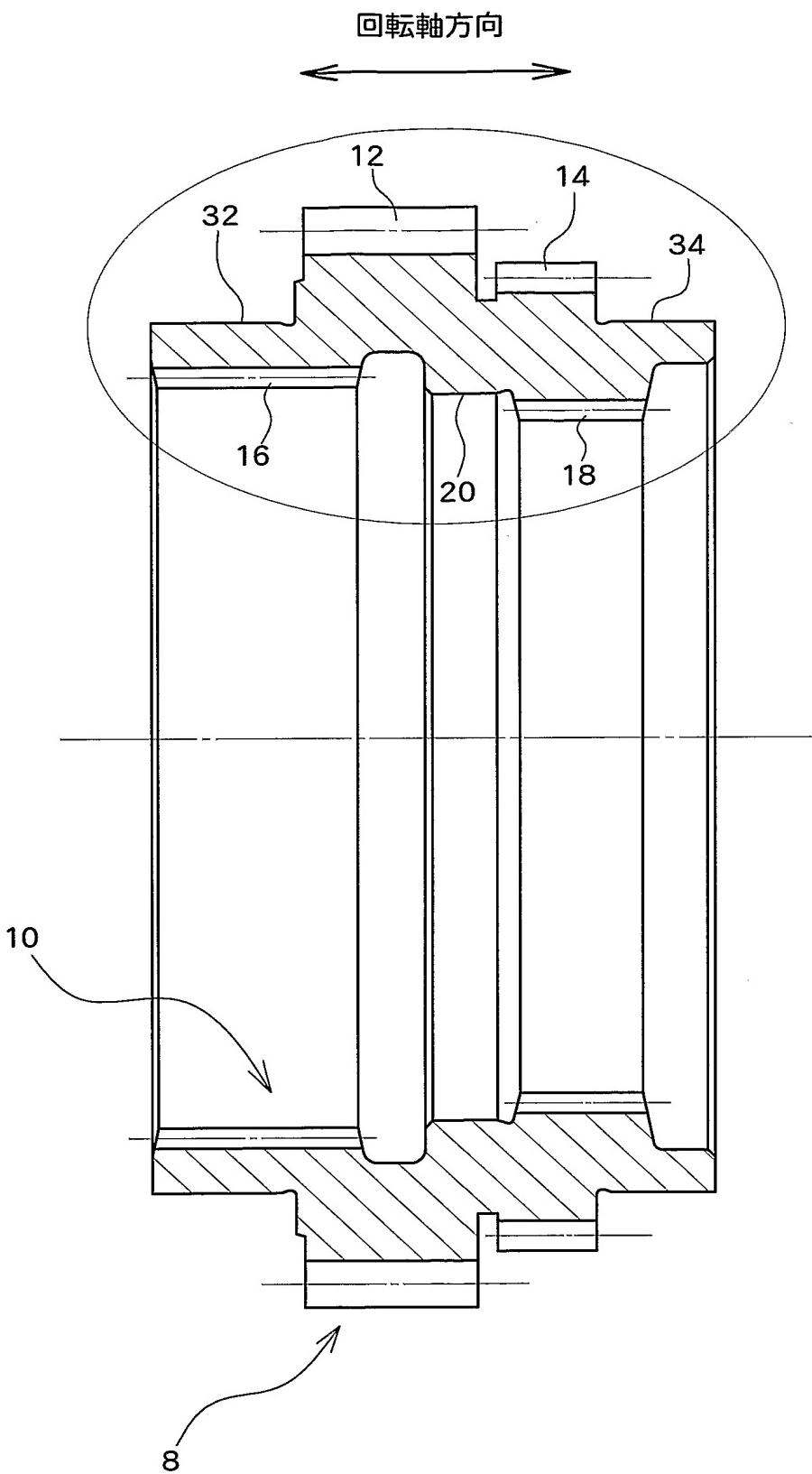


図 2

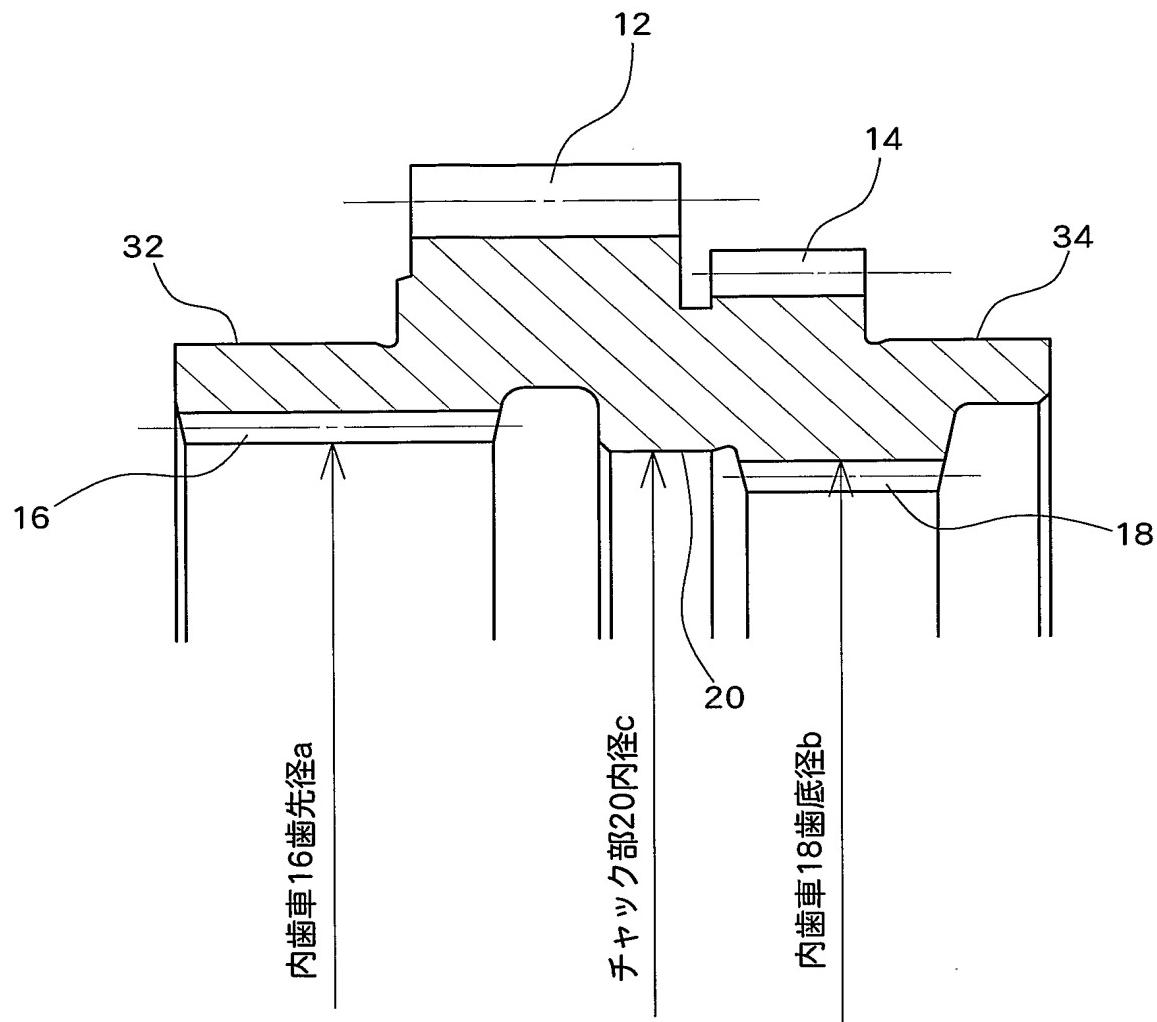


図 3

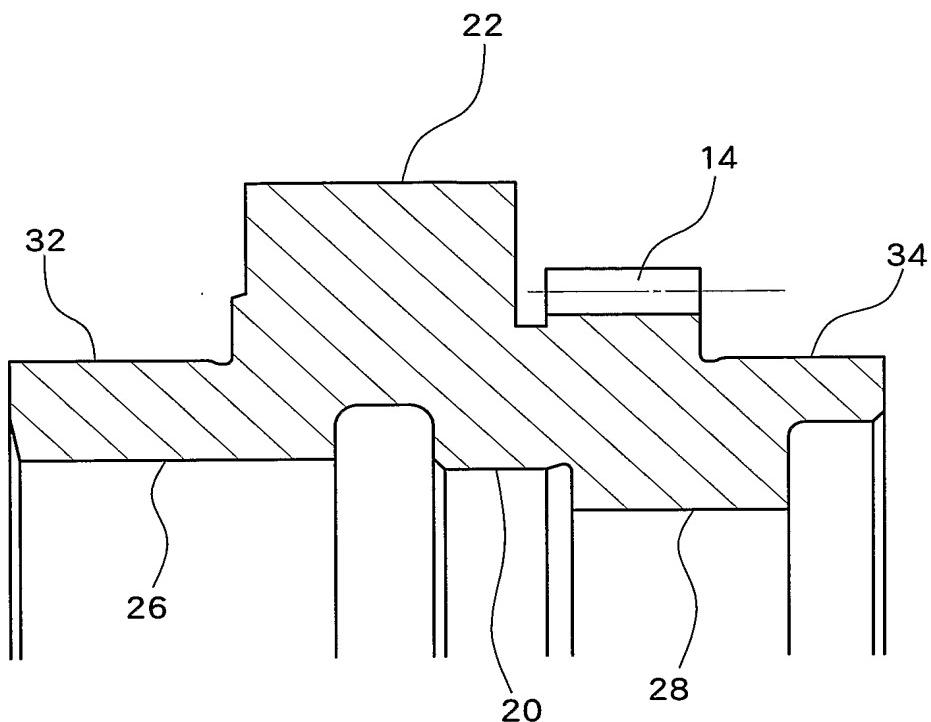


図 4

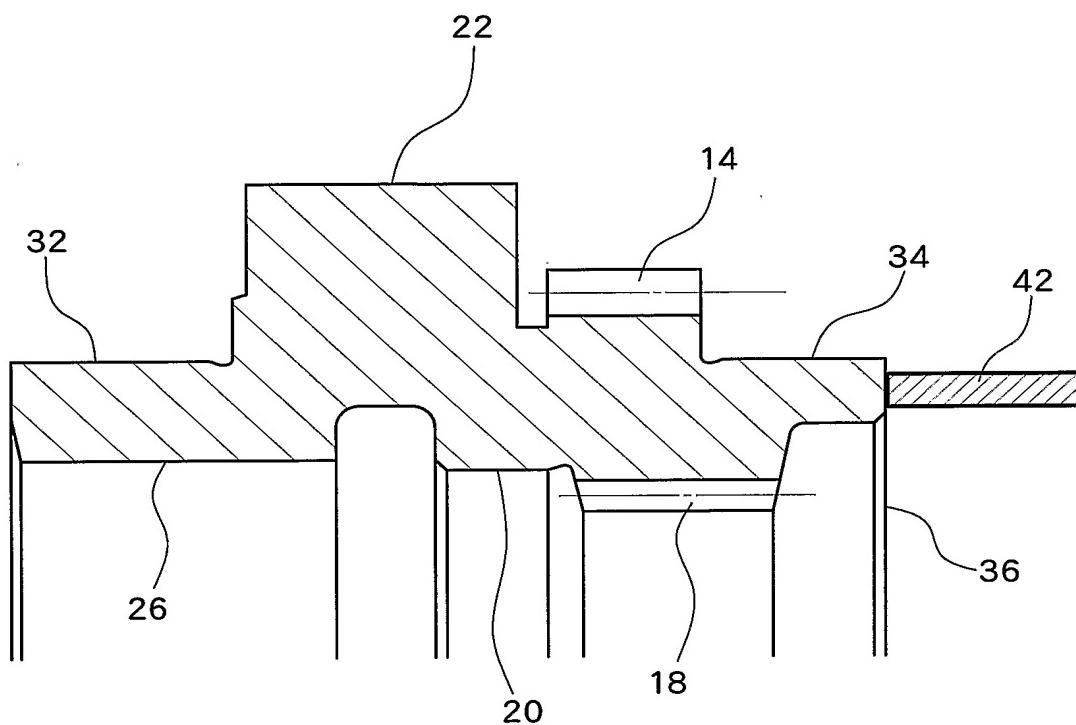


図 5

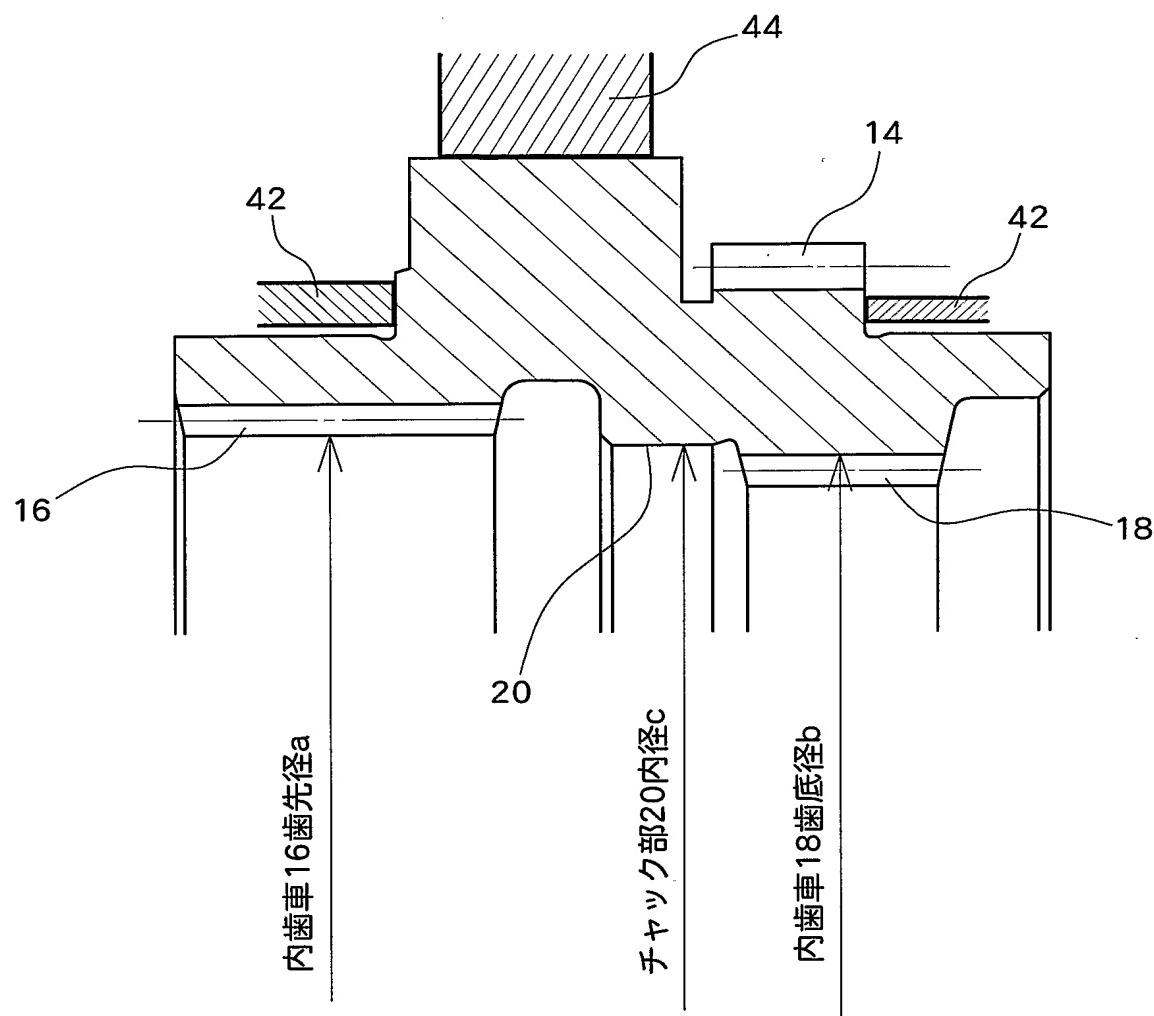
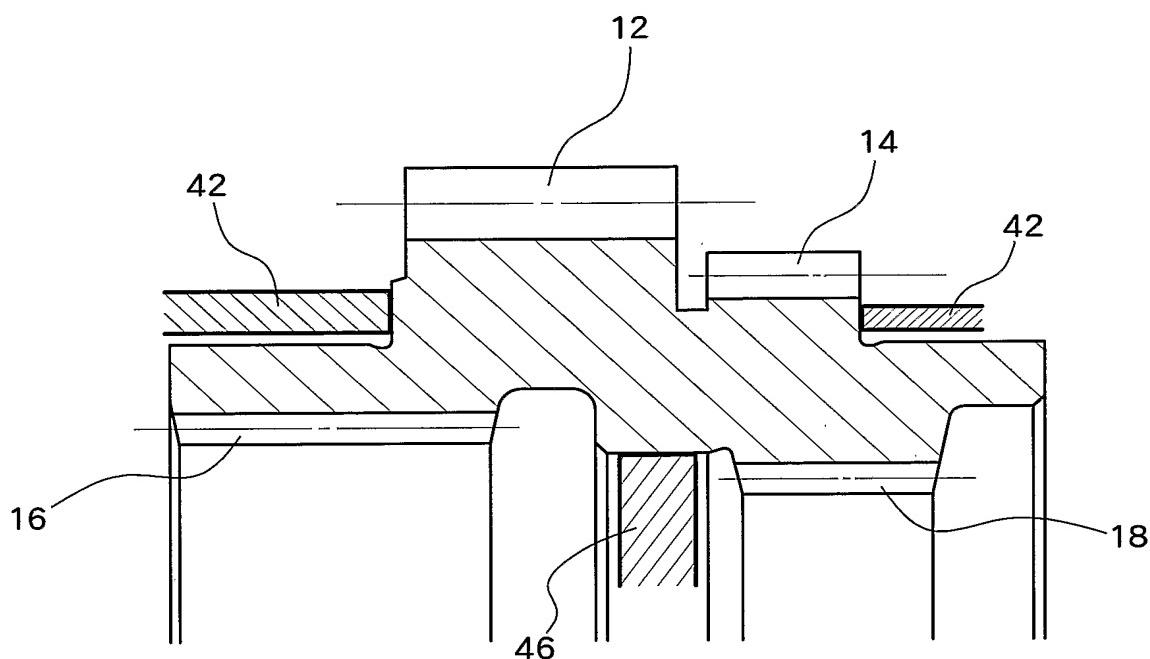


図 6



**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**

International application No.

PCT/JP2005/003554

**A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**  
**Int.Cl<sup>7</sup> F16H55/17, B23F15/00**

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

**B. FIELDS SEARCHED**
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
**Int.Cl<sup>7</sup> F16H55/00-55/28, B23F1/00-23/12**Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2005  
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2005 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

**C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT**

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 197577/1987 (Laid-open No. 102558/1989) (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.), 11 July, 1989 (11.07.89), Fig. 4 (Family: none)	1-4
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 17070/1978 (Laid-open No. 121146/1979) (Komatsu Ltd.), 24 August, 1979 (24.08.79), Fig. 1 (Family: none)	1-4

 Further documents are listed in the continuation of Box C.

 See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	"&" document member of the same patent family
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search  
06 May, 2005 (06.05.05)Date of mailing of the international search report  
24 May, 2005 (24.05.05)Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

**INTERNATIONAL SEARCH REPORT**International application No.  
PCT/JP2005/003554

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	CD-ROM of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 67105/1997 (Laid-open No. 19706/1993) (Seirei Industry Co., Ltd.), 12 March, 1993 (12.03.93), Figs. 3, 5, 6 (Family: none)	1-4
A	JP 63-34285 A (Nihon Plast Co., Ltd.), 13 February, 1988 (13.02.88), Figs. 1, 3 (Family: none)	1-4

## A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl.7 F16H 55/17, B23F 15/00

## B. 調査を行った分野

## 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl.7 F16H 55/00-55/28, B23F 1/00-23/12

## 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

## 国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	日本国実用新案登録出願 62-197577号(日本国実用新案登録出願公開 1-102558号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(三菱重工業株式会社) 1989.07.11, 第4図 (ファミリーなし)	1-4
A	日本国実用新案登録出願 53-17070号(日本国実用新案登録出願公開 54-121146号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(株式会社小松製作所) 1979.08.24, 第1図 (ファミリーなし)	1-4

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献(理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願目前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

## の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&amp;」同一パテントファミリー文献

## 国際調査を完了した日

06.05.2005

国際調査報告の発送日 24.5.2005

## 国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員)

鈴木 充

3 J 8916

電話番号 03-3581-1101 内線 3328

C(続き) .	関連すると認められる文献	関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
A	日本国実用新案登録出願 3-67105 号(日本国実用新案登録出願公開 5-19706 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録した C D - R O M (セイレイ工業株式会社) 1993. 03. 12, 図 3, 5, 6 (ファミリーなし)	1-4
A	JP 63-34285 A (日本プラスチック株式会社) 1988. 02. 13, 第 1, 3 図 (ファミリーなし)	1-4